



あすへ アタック!

活力元年

知事に聞く 16

昭和56年度 県の予算



この四月から、昭和五十六年度が始まります。県は、これから一年間、県民生活の向上を願って、いろいろな仕事に取り組みますが、その裏付けとなるのが予算。そこで、新年度にかける抱負と予算のあらましなどを仮谷知事に聞きました。

昭和五十六年度の予算編成で、基本としたことは？
仮谷知事 私は、県政をすすめていくうえで、活力あふれるふるさ

とづくり、安心できるくらしづくり、明日をひらくひとづくり、この三つを基本的な目標にしています。
特にことは、活力あふれるふるさとづくりに重点を置いて県政をすすめる考えです。それには、和歌山県の経済の

振興をはからなければなりません。予算も、ことしを「活力元年」と積極的に組みました。
国は、財政再建に取り組み非常にきびしい予算ですが、県もきびしい中で、施策の思い切った選択と財源の効率的な配分で、年間総合予算を組んだ次第です。
また、かねて懸案であった三つのプロジェクト、つまり紀北研究学園ゾーン、御坊の田園工業都市構想、そして、紀南福祉エリアの建設……一部見なおし、新しく対応しなければならぬ点もあります。が、これらの実現に取り組む

まず、企業誘致と道路の整備

ため予算措置を行いました。安心できるくらしづくりをめざす「福祉和歌山」の建設も県政の重要課題です。特にことしは、「完全参加と平等」をテーマとした国際障害者年であり、地域社会と行政が一体となり、互いに温かい心をもつ福祉活動を展開し、この国際障害者年を意義あるものにし、たいと考えています。
また、本年度は、同和対策事業特別措置法の最終年度です。予算面でも十分配慮し、同和問題の完全解決をめざします。
以上が、私がことしの予算編成で基本としたことです。

——ことしを「活力元年」ということですが、具体的な例を二、三あげて下さい。

「国際障害者年」

誘致を積極的にすすめる、雇用の機会を確保すること。
また、道路や港湾を重点的に整備し、民間の企業家や農林漁業者の皆さんが十分、力を発揮できるようにします。
国から補助の出る公共事業費は、伸びていませんが（前年増〇・三〇％）、県単独事業費を前年より十一％増額し、積極的に取り組んだわけです。
具体的には、企業誘致用の土地購入、高速道路の紀南延伸をすすめる調査、紀の川河口の有料道路や紀淡トンネルの建設調査、国道24号和歌山バイパスの用地先行取得と紀州大橋の着工、また、日高港の整備にも着手します。
その外、産業振興策として中小企業の経営合理化、近代化のための「中小企業情報センター」や県のシンクタンクとしての（財）和歌山社会経済研究所（仮称）も設立することになっています。

県民みんながボランティアに

先ほど、国際障害者年を意義ある年にしたい——と伺いましたが、県の取り組みで特色のあるものは？
知事 まず、身体および精神に障害のある方々のための施設整備に取り組めます。特に精神薄弱者の働く場所づくり、そして、精神薄弱者更生施設
「由良あかつき園」にも作業棟を建設します。
記念事業としては、身体障害者やボランティアの方々の参加を得て「ふれあいコンサート」を開催したり、ボランティア活動をすすめる一助にも、福祉振興基金にも助成します。

成功させたい！

「自然公園大会」

——文化の振興など、いろいろな施策を行うと思いますが、収入の面は大丈夫ですか？
知事 そうです。医療面や教育の問題など、一日もゆるがせにできない多くの事業を、きめ細かくすすめて行かなくてはなりません。
県税収入や国からの地方交付税も少なく、国と同じで非常にきびしい財政事情ですが、財政調整基金なども活用して何とかやりぬいていく覚悟です。そして、産業基盤の整備などに尽くしてまいりますので、農林漁業や中小企業にたずさわる方々はもちろん、県民うって一丸となって「活力あふれる郷土づくり」にご協力いただきたいと思います。

ことしは本県で自然公園大会も開催されるんですね。
知事 七月二十七日、二十八日の両日、和歌山市加太で開催します。この大会を、私たちが自然の大切さを見なおす機会にするとともに、ことしは、黒潮国体からちょうど十年です。
皇族をお招きするのを初め、全国から多くの方々を迎えて、和歌山のすばらしい自然景観と、温かい人情のふれあい……といったものを満喫してもらいたいものだと考えています。
外にも、医療行政やスポ

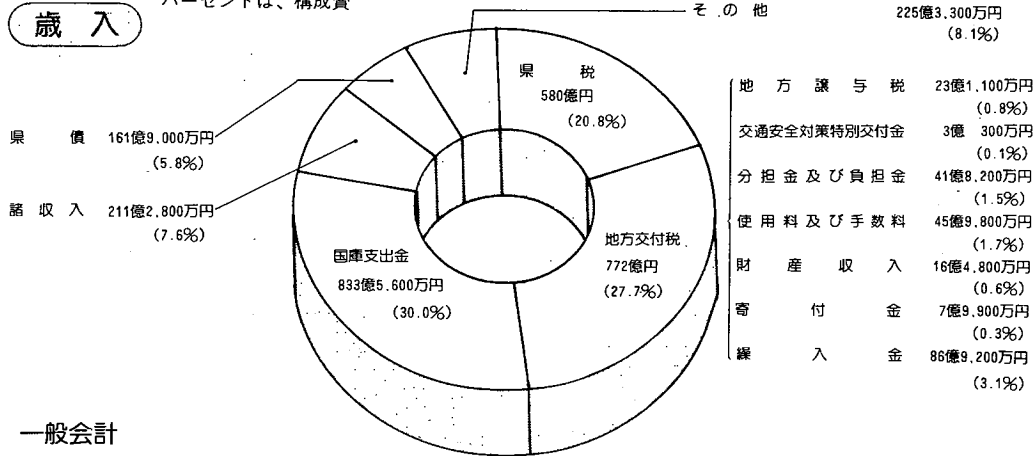
昭和56年度 予算の規模			
一般会計	2,784億	663万円	(8.3%増)
特別会計	555億	579万円	(0.1%増)
企業会計	74億	4,257万円	(85.9%増)

予算総額 3,413億5,499万円

() 内は、昭和55年度との比較

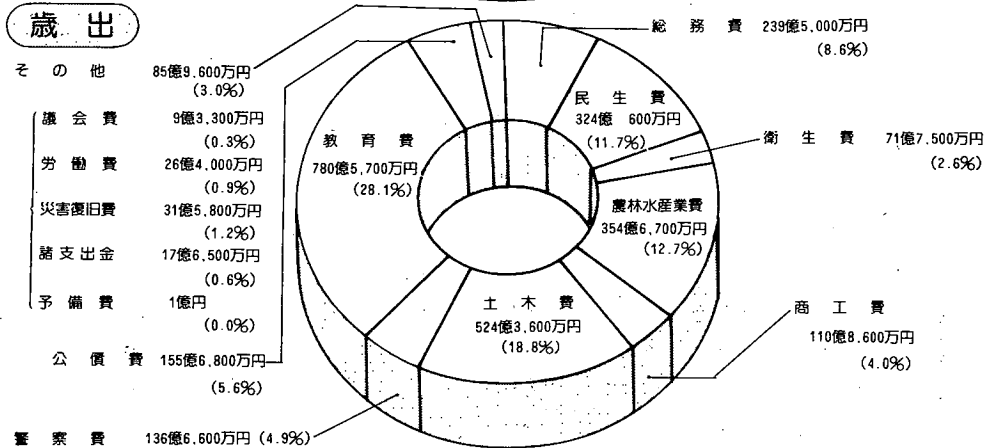
一般会計

歳入



一般会計

歳出



2,784億円
三つの基本目標達成に

県政の基本目標

3、明日をひらく人づくり

2、安心できるくらしづくり

1、活力あふれるふるさとづくり

活力予算

暮らしいきいき

昭和56年度 予算のあらまし

※ここでは、県政の基本目標に沿って組まれた事業のうち新規のものを中心に掲載。◎印は、新規事業。金額は、十万円単位で四捨五入。

働きがいと秩序ある産業の発展



◎極早生ミカン“宮本早生”の新産地育成 5,300万円

9月中旬には収穫できる温州ミカンの新品種を本県の特産品にしようというのが目的。

◎果実加工高度化施設の整備に補助 8,500万円

県経済連がミカンや柿を原料として、糖蜜や柿しぶなどの新製品開発をすすめている。その施設整備に補助。

◎野菜輸送の合理化モデル事業 900万円

コンテナで農家・市場・小売店を結ぶ“通い箱システム”の導入。野菜の流通促進と品傷みを防ぎ、流通経費の節減をはかるのが目的。

◎太陽熱利用による土壌内の病害防除試験 1,400万円

◎農業近代化資金（融資枠38億円）の利子補給補助 4億7,600万円

◎学童体験学習に補助 200万円

小中学生に農作業を体験させ、農業に理解をもってもらうのが目的。

◎林道の整備 25億3,700万円

◎造林事業に補助 4億9,100万円

◎間伐材の生産、加工、流通に至る総合対策 2億1,100万円

◎グリーンマイスター育成事業 900万円

山村地域の中核となる青年林業労働者の育成。

◎青年林業士の活動促進 200万円

◎松くい虫の防除 2億7,100万円
◎漁港の整備 37億1,900万円
◎漁港施設用地を造成 2億円
◎人工礁の投入で漁場造成 2億4,900万円

◎アワビ、マダイの幼稚子保育場を造成 6,800万円

◎養殖生産体制の再編パイロット（串本町地内で実施） 8,600万円

◎アユ種苗センターの建設補助（日高川漁業協同組合） 3,900万円

◎漁業近代化資金貸付（融資枠約16億円）の利子補給 1億6,500万円

◎中小企業情報センターの設置（7月、和歌山市に開設予定） 2,800万円

中小企業者からの相談に応じるとともに定期的に情報を提供する。

◎地場産業振興ビジョンの策定 900万円

◎中小企業金融諸制度を充実（融資枠302億9,000万円に必要な預託金を準備） 75億3,200万円

◎技術アドバイザー制度の充実 1,000万円

◎技術コミュニケーションプラザの開設に補助 200万円

異業種グループ間で技術交流をはかるため、研究会を開く。

◎活力あふれる観光地づくり推進（各観光地の診断） 500万円

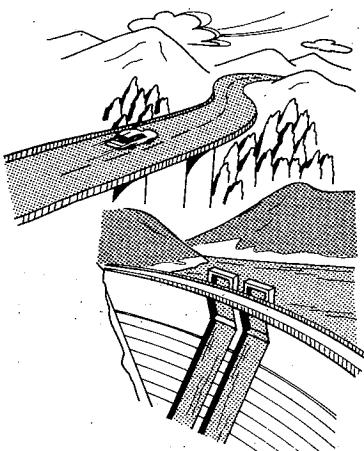
◎勤労者総合福祉会館を和歌山市に建設する（実施設計費） 1,900万円

◎「和歌山市シルバー人材センター」に助成 400万円

◎（財）和歌山社会経済研究所（仮称）の設立に出資金 1億円

県内の産業、経済のあり方、エネルギー問題など考えていくためのシンクタンク。

豊かな郷土への基盤整備



◎企業進出の受け皿づくりのための土地造成 33億円

◎吉備～御坊間の高速道路延長についての基礎調査 600万円

◎紀の川河口の有料道路建設に伴う概略設計 600万円

調和と連帯のある地域社会の形成

◎市街地整備基本計画の策定 300万円

◎農用地利用増進特別対策 1億4,600万円

農家の経営規模の拡大や農作業の共同化など農地の有効利用事業に補助。5地域を予定。

◎新農村婦人の家設置 2,000万円

◎農業構造改善事業 7億2,000万円

◎農道整備や畑地かんがいなど耕地事業 90億3,200万円

◎沿岸漁業構造改善事業 3億900万円

◎山村振興特別対策 3億1,000万円

◎都市青年と山村青年の交流活動推進（龍神村で予定） 300万円

◎林業構造改善事業 8億8,400万円

◎第3期山村振興農林漁業対策 4億3,200万円

◎道路、鉄道、空港、海上交通などを組み合わせた「望ましい総合交通体系」を調査 500万円

◎紀淡トンネル建設に伴う交通経済調査 1,100万円

◎国道24号和歌山バイパスの用地先行取得 10億円

◎高野龍神スカイライン関連道路の整備 19億9,400万円

◎県道などの整備 188億4,500万円

◎港湾の整備 39億8,800万円

◎地方バス路線(139路線)の運行維持対策 5億4,300万円

◎水資源の開発調査 1,600万円

◎地熱、太陽、風力など地域エネルギー開発利用調査 1,500万円

◎日高川総合開発「椿山ダム」の建設 80億1,600万円

就業機会の確保、生活環境の整備、高齢者の生きがい対策など総合的に実施するため市町村に補助。

◎農村地域定住促進対策事業 1億3,000万円

◎過そ地域に住民生活の拠りどころとなる「総合センター」建設に補助（すさみ町、美里町） 1,500万円

◎関西国際空港計画に対する県独自の調査費 2,400万円



昭和56年度

予算の重点項目

県勢に活力を注入するには、経済力を高めることが先決。企業誘致をはじめ、県内既存企業の拡張などを促す。また県産業構造長期ビジョンの策定、中小企業情報センターの設置、さらに県のシンクタンクとしての(財)和歌山県社会経済研究所を設立する。ほかに

産業の振興

- 日高港整備に着手
- 日高川の総合開発 など
- 企業誘致用の土地取得 など
- 県単独事業費 前年比一一・〇〇％
- 紀の川に川辺橋、紀州大橋、そして河口大橋の三つの橋を建設。
- 高速道路の延長調査

① 県経済の浮上対策

県民生活に直結した社会資本の整備と、民間経済の活力が一層発揮できるように環境整備に努めた。

道路など社会資本の整備

- 公営住宅を県内に 240戸建設 38億9,400万円
- 地域環境管理調査 300万円
- 紀の川流域下水道整備 8億円
- (財)和歌山県環境保全公社(仮称)を設立、指導 2,100万円
- 第23回自然公園大会を開催 9,800万円
- 大規模年金保養基地(紀南福祉エリア)建設の基本設計 1億円
- 特別養護老人ホーム、老人福祉センターの建設に補助 3億2,900万円
- 老人医療費助成 18億5,000万円
- ひとり暮らし、ねたきり老人対策に補助 1億2,000万円
- 「老人の船」実施 1,600万円
- 軽費老人ホーム「無憂園」に冷房設備設置 3,900万円
- 保育所(17カ所)、児童館(7カ所)整備に補助 3億9,200万円
- 障害児保育補助 2,000万円
- 児童福祉施設内の子供 300人をポートピア '81に招待 200万円
- 養護施設の整備に補助(下津町) 6,300万円
- 母子家庭医療費補助 5,600万円
- 身体障害者バス運賃の割引証交付 50万円
- (社)琴の浦リハビリテーションセンター内の義肢装具開発研究棟建設に補助 1,100万円
- 障害福祉都市に指定された橋本市に補助 2,000万円

- 身体障害者の通所授産施設建設に補助(田辺市) 4,400万円
- 由良町に精神薄弱者授産施設を建設 5億6,200万円
- 精神薄弱者更生施設「由良あかつき園」に作業棟を建設 1億1,400万円
- 重度心身障害児(者)の医療費支給経費 2億5,400万円
- 公立病院経営健全化のために融資 8億円
- 保健所の施設整備 3,300万円
- 県下全域に救急医療情報システムを整備運営 1億9,800万円
- 救急医療対策(救急告示病院への補助など) 6,900万円
- 病院群輪番制の実施 3,500万円
- 日高地域について和歌山市で実施。救急患者が入院し、治療が受けられるよう、地域の病院が輪番で当たる。
- 胃検診車の購入 4,800万円
- 振動病等の対策 1,700万円
- 県立医大附属病院の整備 40億6,900万円
- 県立医大の国立移管期成同盟を設置 300万円
- 大気汚染常時監視 5,000万円
- 日高地区に大気監視測定支所を設置 5,100万円
- 関西国際空港関連環境調査 900万円
- 交通安全施設の整備 15億9,800万円
- 県の出先機関、伊都および那賀総合庁舎の建設 14億2,000万円

● 医大再開発構想(仮病院の建設に着手)

● 福祉エリア構想(大規模年金保養基地)——基本設計に着手

● 和歌山県社会経済研究所を設立する。ほかに

④ 県政の課題を著実に実行

- 従来からの課題への取り組み
- 医大再開発構想(仮病院の建設に着手)
- 福祉エリア構想(大規模年金保養基地)——基本設計に着手
- 和歌山県社会経済研究所を設立する。ほかに

② 福祉の充実

国際障害者年を契機に、地域社会と行政が一体となった福祉活動を一層活発に展開していく。

中小企業金融制度の充実

漁場の開発

極早生みかん新産地育成 など

向で検討

- 同和対策——前年より一六％増に当たる二百十五億円を投入。法期限の最終年を迎え、同和問題の完全解決に全力を傾注。
- 御坊田園工業都市構想——吉備、御坊間の高速道路の調査、日高港の整備に着手することにより、構想実現の準備体制に入った。
- 将来構想への取り組み
- 関西新国際空港——国からの協議があれば、県議会をはじめ県民の意見を聞き、総合的に判断する。
- 紀淡トンネル構想——交通経済影響調査に着手
- その他
- 国際障害者年への対応
- (財)県環境保全公社(仮称)の設立——和歌山北港埋立地を廃棄物の最終処分地として活用
- 自然公園大会——7月27日、28日 和歌山市加太で開催
- 県民文化会館紀南分館の建設

同和対策の推進

○ 同和啓発活動の推進

1億6,200万円

○ 隣保館活動助成事業

1億6,600万円

○ 進学奨励事業

6億400万円

経済的な理由で高校、大学での修学が困難な方に経費の一部を補助。

○ 同和教育父母教室の開設

200万円

○ 技能等修得資金の補助

1億400万円

職業対策として各種技能を修得するのに必要な資金補助。

○ 経済更生資金の貸付指導

36億7,800万円

○ 新規開業者への資金金融対策

13億4,300万円

○ 持家対策として住宅新築等に資金の融資(利子補給) 7,100万円

○ 環境整備事業に補助

42億1,000万円

国際障害者年関連



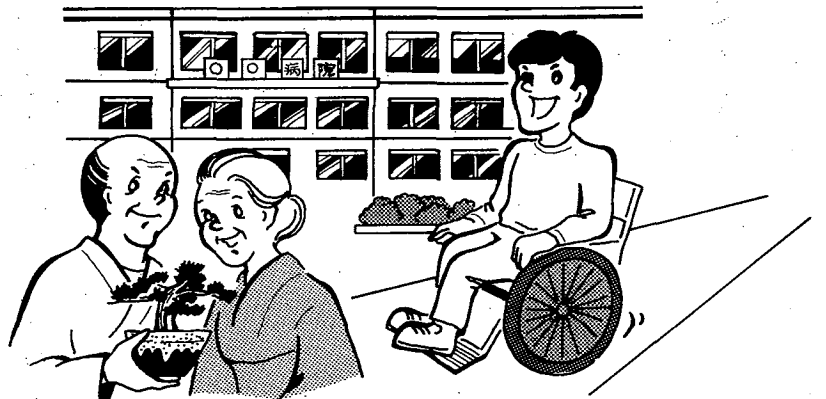
- ◎ 国際障害者年啓発 2,100万円
- ◎ ボランティア活動などに補助 1億円
- ◎ 障害者(児)作品展開催 300万円
- ◎ 身体障害者、ボランティアなどの

- 参加で「ふれあいコンサート」を開催 500万円
- ◎ 県立五稜病院内に「精神衛生センター」を設置 200万円
- ◎ 庁舎や高校、公営住宅などを身体障害者が利用しやすくするための整備 1億6,500万円

健康で安定した生活の確保

- 公営住宅を県内に 240戸建設 38億9,400万円
- 地域環境管理調査 300万円
- 紀の川流域下水道整備 8億円
- (財)和歌山県環境保全公社(仮称)を設立、指導 2,100万円
- 第23回自然公園大会を開催 9,800万円
- 大規模年金保養基地(紀南福祉エリア)建設の基本設計 1億円
- 特別養護老人ホーム、老人福祉センターの建設に補助 3億2,900万円
- 老人医療費助成 18億5,000万円
- ひとり暮らし、ねたきり老人対策に補助 1億2,000万円
- 「老人の船」実施 1,600万円
- 軽費老人ホーム「無憂園」に冷房設備設置 3,900万円
- 保育所(17カ所)、児童館(7カ所)整備に補助 3億9,200万円
- 障害児保育補助 2,000万円
- 児童福祉施設内の子供 300人をポートピア '81に招待 200万円
- 養護施設の整備に補助(下津町) 6,300万円
- 母子家庭医療費補助 5,600万円
- 身体障害者バス運賃の割引証交付 50万円
- (社)琴の浦リハビリテーションセンター内の義肢装具開発研究棟建設に補助 1,100万円
- 障害福祉都市に指定された橋本市に補助 2,000万円

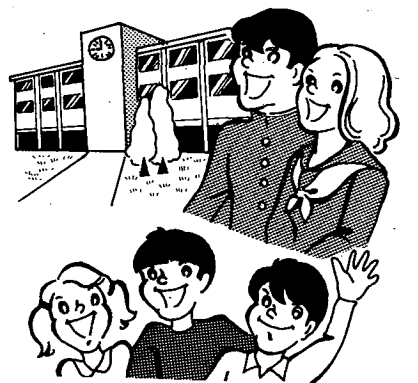
- 身体障害者の通所授産施設建設に補助(田辺市) 4,400万円
- 由良町に精神薄弱者授産施設を建設 5億6,200万円
- 精神薄弱者更生施設「由良あかつき園」に作業棟を建設 1億1,400万円
- 重度心身障害児(者)の医療費支給経費 2億5,400万円
- 公立病院経営健全化のために融資 8億円
- 保健所の施設整備 3,300万円
- 県下全域に救急医療情報システムを整備運営 1億9,800万円
- 救急医療対策(救急告示病院への補助など) 6,900万円
- 病院群輪番制の実施 3,500万円
- 日高地域について和歌山市で実施。救急患者が入院し、治療が受けられるよう、地域の病院が輪番で当たる。
- 胃検診車の購入 4,800万円
- 振動病等の対策 1,700万円
- 県立医大附属病院の整備 40億6,900万円
- 県立医大の国立移管期成同盟を設置 300万円
- 大気汚染常時監視 5,000万円
- 日高地区に大気監視測定支所を設置 5,100万円
- 関西国際空港関連環境調査 900万円
- 交通安全施設の整備 15億9,800万円
- 県の出先機関、伊都および那賀総合庁舎の建設 14億2,000万円



たくましく、心豊かな県民の育成

- 高校の校舎増築や危険校舎の改築 17億800万円
- 総合教育センター建設(紀北研究学園ゾーン内)の調査 500万円
- 私立学校振興のため補助 9億2,100万円
- 県民文化祭を開催 2,400万円
- 県民文化会館紀南分館の建設 3,000万円
- ◎ 文化・教育施設整備基金を設置 3億円
- 自然博物館の建設および開設準備(57年5月開館予定) 4億1,300万円
- 子ども会育成のため市町村に補助 1億5,200万円
- ◎ 白崎少年自然の家に運動場建設 5,100万円

- ◎ 障害者とともにデーキャンプなどを行う費用を青年団協議会に補助 100万円
- 学校体育施設開放 2,800万円
- 県立医大の将来構想検討 200万円



予算の豆知識

■ 県予算の誕生

経済状況などの見通しを立て、県税など、4月1日から翌年の3月31日までの収入を見積もる。一方、県政の基本方針および県民の要望に沿った施策を考え、それに見合う支出見込額を割り振る。歳出。知事が、この歳入歳出の予算の原案をつくり、県議会に提案、そこで審議、議決されて予算の誕生となる。

■ 地方交付税

国税三税(所得税法法人税・酒税)の中から地方自治体にまわされる資金などのこと。全国的に共通な行政について地方財政の格差をなくし、一定の行政水準が保たれるように各地方自治体の財源不足を補うもの。

■ 国庫支出金

国が、地方自治体の支出する特定の経費について、その一定割合を支出するもの。国会議員の選挙など、国の仕事を代行する場合に支出される委託金。義務教育、道路整備など、国も重大な責任をもつ事業について、国と地方自治体がいわばワリカンで仕事をするために支出する負担金。国が地方自治体に仕事をすすめたり、財政援助のために出す補助金に大別される。

■ 特別会計

地方自治体が特別の事業を行う場合、その事業の歳入をもつて歳出に充て、一般会計とは切り離して別に収支経理を行う会計のこと。本県の場合、中小企業近代化資金、県立医科大学、県営競輪その他事業、中小河川総合開発(橋山ダムの建設ほか)などの特別会計がある。

古くて、狭い建物 医療機器の導入も不可能

附属病院の現状

今の附属病院は、戦後、旧高島屋などの古い建物を転用して、継ぎ足し、継ぎ足しの形で整備してきました。そのため病院施設としての機能が十分果たせず、それに狭くて新しい医療機器を導入する余地もなく、日進月歩の医療システムに対応できない状態です。その上、患者の増加により一層狭くなり、玄関ホール

をはじめ異常な混雑を招いています。

建物にも亀裂が入るなど老朽化が進み、それに加えて、冷暖房、空調設備などが不備なため院内環境が悪く、防災設備も十分でないで関係機関から改善方を強く指摘されるなど、一日も放置できない窮状にあります。

この際、

統合移転できないのか？

医科大学は、交通の便など立地条件がよく、緑地空間のある広い敷地に、すべての施設がまとまった形で設置できれば理想的です。問題は、それが可能かどうかということです。今日まで医大整備問題の審議の中でもいろいろな角度から検討されてきましたが、県の財政力からいって、県独自の力で実現することは極めて難しいと考えられます。

県の財政力ではとても無理

例えば、昭和五十四年度決算による県の財政規模は、総額約二千六百億円。このうち

統合移転には五〇〇億円かかる

農地など平坦地に広い用地を確保することは、本県の土地利用の実態などからみて困難です。

県では具体的な土地（ほとんど山地）を前提に、統合移転にかかる経費を試算したところ約五百億円が必要と見込まれました。もちろん、これは土地価格、造成経費、建築費、関連整備事業費などについて専門家の協力を得て

人までの県民一人当たりで約五万円、五人家族の一世帯では二十五万円の負担となるのです。なお、福島県の財政規模は本県の約二倍ですが、統合移転による財政負担はやはり大変きびしいものと聞いています。これは、赤ちゃんから老

県の基本方針

○大学の将来構想 ○附属病院の改築 を柱に

医大の実情、とりわけ附属病院の窮状をみるにつけて、県は、県議会の審議を得ながら大学とも精力的に話し合うなど、その整備を一日でも早く実現しようと努力してきました。

放置できない

附属病院

医大の再建は、病院だけでなく大学の校舎も含めて、全面的に整備するのが望ましいことはもちろんです。

て決定しました。

①大学の将来構想

大学の発展のため、国立移管を目指すとともに統合移転を行うことを基本とする。

②現附属病院の改築

附属病院は現在地で改築することとし、早急に基本設計および実施設計に着手する。この改築の規模は、既存病棟の利用を含め八〇〇床程度をめどとする。（現在六八二床）また、大学の将来構想の実現に伴い、附属病院の性格の見直しが必要となる場合は、県立病院などの診療病院として維持していくことも含めて検討する。

「県民の医療センター」として

ふさわしいものに

病院改築の規模は、八百床程度

現在の病棟の利用を含めて八〇〇床程度設置を目標にしています。近代医学、医療に対応できるよう、新しい医療機器を導入し、外来診療、手術、検査部門の拡充や、病棟部門をゆとりとやすらぎの持てるものに拡充します。さらに、臨床教育部門を充実するので現在の病院面積よりはるかに広く、大きくになります。いずれにしても、県の医療センターとして恥ずかしくないものにする考えです。

建替手順は、スクラップ、

アンド、ビルド方式を採用。

①まず、医大の北側に隣接する旧興和紡績跡地に本建築による建物を建設。これは、取り壊す建物の入院患者の移転先と安静な環境を確保するため、また、病院の日常業務や大学の教育、研究への影響の出ないようにするため、仮病室と一時的な教育部門などのスペースとして利用します。

②旧興和紡績跡地への建物の建設が完了し次第、第六病棟（旧高島屋）、第一病棟、第二病棟の入院患者や教育部門などを移転。これらの古い建物を取り壊し、ここに新しい病院建物の大部分を建設することになっています。

③第二期工事として、第三病棟や診療本館などを取り壊し、さらに新しい建物を建設することになっています。

なお、現在の敷地の一番北側にある第五病棟は、比較的新しいのでそのまま病棟として利用する予定です。また、建物の建設地以外は空地とし、病院環境の改善に役立てます。なお、旧興和紡績跡地に建てた建物は、本病院が完成すると他の用途に利用の予定です。

スクラップ、アンド、ビルド方式とは

●古い建物を取り壊し、その



医大整備 基本方針きまる



まず病院を現地改築 将来は国立移管を！

建物が狭く、老朽化もひどく部分的な整備では追いつけなくなっている県立医科大学。そのため、県は十年ほど前から県議会はじめ関係者の意見を聞きながら、現地で再開発、そして、他の広い場所への統合移転など

いろいろ慎重に検討してきました。しかし、医大の現状、とりわけ、附属病院はもう一日も放置できない最悪の状態です。そこで、まず、病院を現地で建て替えることにしました。

この紙面では、病院の現状、理想である統合移転の可能性、そして県の基本方針などを説明し、みなさんの理解と協力を得たいと思います。

医大附属病院整備計画案

内は、存置部分

工事中の病院業務は、平常どおり

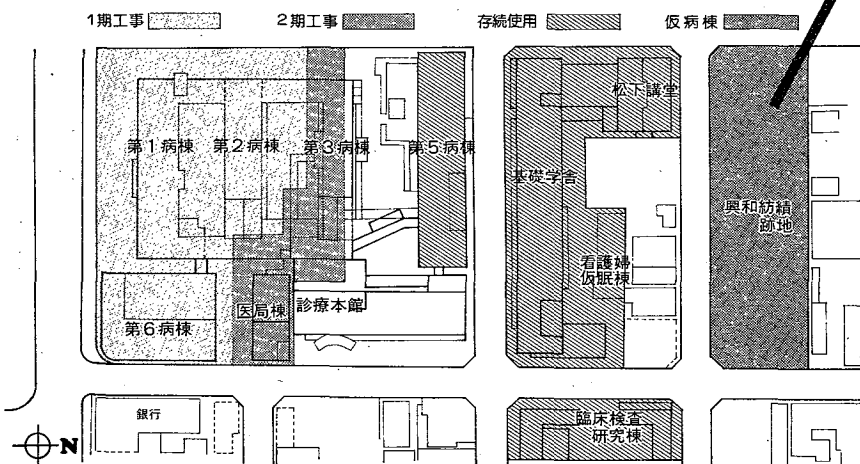
診療、入院などの業務を中断することなく、平常どおり続けられるよう計画。また、現在のベッド数（六八二床）を確保していきたいと考えています。

◆ 附属病院の改築は、旧興和でも基本設計のための準備作業を急いでいます。

◆ また、附属病院本体についても基本設計の発注。基本設計のあとは引き続き実施設計を行い、建築工事にかかる予定です。



現状配置図と建て替え部分



○病室にすき間がいつぱいあり、紙でふさぐような始末。とにかく、建物が古いので不潔な感じ。特にトイレがきたなくて困った。

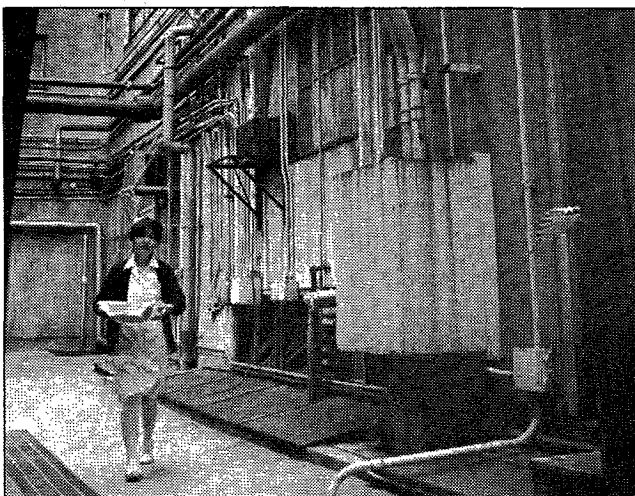
○迷路のような通路で、自分の病室へ行けなかったことがある。

○お見舞いなどで病院へ入っていくと、健康なものでも気分が悪くなるように思う……

利用者からこんな言葉が次々と飛び出す。もう限界にきている附属病院。

医大附属病院改築スケジュール

年	56	57	58	59	60	61	62	63
事業	設計 2月 10月	工事 11月 3月						
仮病棟								
附属病院	設計 4月	3月 10月 病床移転等	第1期工事	4月 8月 第2期工事	1月			



統合移転は

ぜひ、国立移管で

国の一県一医大構想

これまで県は、地域医療に従事する医師を確保するため、乏しい財源の中で努力して県立医大を運営してきました。しかし、最近では国が全国で国公立の医大のない府県を対象に、一県一医大構想による医大建設事業を推進している状況です。

こうして、北海道から沖縄まで一県に一医大が国の手で整備されており、現在、府県で医大をもっているのは本県を含めて五県しかありません。

年間、約19億円かかる和医大の教育費

最近の例でみると和医大の

和医大教育費のあらまし

年間総額	約19億4,000万円
学生1人に要する年間経費	約 464万円
学生1人が卒業までに要する経費	約 2,800万円

総力をあげて「国立移管」をすすめる

県は、医大を維持していくために、苦しい県財政の中から毎年度、多額の県費を負担していますが、将来も増加の傾向にあります。

それでもなお、医大、附属病院ともに十分な施設水準とはいえず、今後の発展を期すには国の力を借りることが必要不可欠と思われる。

過去に数県で医大の国立移

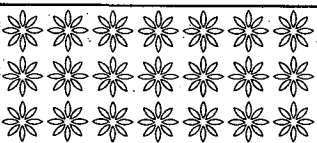
跡地に新しい建物を建設する方法。この方法は、都市の中心部などで一般のビル建設にも数多く採用されている。病院の例では東京女子医大附属病院がこの方法によって完成。同じ公立である京都府立医大附属病院も現在この方法で改築中である。

●工事に当たった対策は――

病院環境の維持や教育、研究、

ようにするため、取り壊す建物の周囲をスッポリと防音壁で囲み、低騒音、低振動の近代的工法を採用するなど予防措置をする。

建設用鉄骨や資材の搬入なども、工場組立や作業基地を他所に設けるとともに、工事用自動車の運行なども十分対策をたてて万全を期すことにしている。



連載

勇気

北山村 北山中学校
一年 田中 ひろみ

電車に乗った時の事だ。あの駅で、小さなおばあさんが一人で乗ってきた。そんなに大きくはないが荷物を少し持っていた。席は全部ふさがっていて、立っているしかない。そのおばあさんはあたりを見回してから足もとに荷物を置いて、ドアの近くの棒につかまって立っていた。電車がゆれるたびに揺れていた。すると腹の立つことに、私の近くに座っていた男の人がおばあさんを、まるで汚ない物でも見るかのようにいやな目つきで見ているのだ。中には、さつきおばあさんが乗ってくるまでおきていた人が寝たふりをしていたり、新聞や本で顔をかくしたりまでしている人がいる。

一度大きく電車がゆれて、おばあさんがよろけてこけそうになった。それでもだれも席をかわろうとしない。寝たふりをしたまま、新聞で顔をかくしたまま。私が、いっしょにいた親せきのおばあさんに、「ねえ、おばあちゃん。あのばあちゃんに席をかわたらう」というと、「うん、おばあちゃんかわつたら、あんた、座るとき、そう言っておばあさんは、おばあさんに席をかわってあげた。」「すいませんねえ。すいませんねえ」と何度もお礼を言って、おばあさんは私のとなりで座った。そして、しばらくたつてどこかの駅でおばあさんは、何度も頭をさげて降りて行った。

「少年非行防止 ひとつの輪運動」にご協力を!



県民の皆様のご協力があれば少年非行は防げません。この運動にぜひご参加下さい。

昭和五十六年度の重点目標は次の五つ。

- 万引きの防止
 - シンナー等薬物乱用の防止
 - 暴走族の絶滅
 - 家出や自殺の防止
 - 有害図書等の追放
- 特に万引き、「シンナー」等薬物乱用防止に力を入れます。少年犯罪はうんと減りますので、これに力点を置いて取り組みます。
- この運動についてご意見があればお知らせ下さい。
- 県庁青少年保護課 ☎(0734) 32-4111、内線2060

すれちがうたびにその人に見られていた。その人たちはいったいどういふ気持ちでその男の人を見ているのだろうか。あの男の子たちのようなつめたい気持ちで見ていたのだろうか。しかし、私もそういうつめたい気持ちで人を見た事がある。この時だ。あの男の子たちに腹を立てていながら、やっぱり自分の心の中にもそういう気持ちがなかった。たまたまと言えない。きつとあった。あの男の子たちには腹を立てながら、結局何も言えなかったのは自分の心の中にも、そういう気持ちがあつたせいもあると思う。

その足の悪い男の子は、こんな人がたくさんいる所へ来るのはいやだろう。人にじろじろ見られるたびに「いらい」を思ふ。そんな気持ちも知らないで、いや、考えよう。もしも、くすくす笑う人がいるのだ。足が悪くてびっこをひかなければならぬ。苦しみは自分の事として考えればよい。それにしても電車の中での事もデパートでの事も私の態度は一体何だったのだろうか。心の中でいくらおばあさんに席をゆずってあげればよいのに、足の悪い人の身になって考えればよいと思ひながら何一つ自分には勇気がなくてただ見ていただけ。

はないのか。結局は自分だつて他の人と同じなのではないかという気持ちで一杯だ。私に勇気があれば、おばあさんに席をかわってあげる事も、あの男の子たちに注意する事だつてできたかもしれない。でも私にはその勇気がなかった。「勇気」……これが私をふくめてすべての人々にあつたなら、この世の中の悪い事や苦しい事がなくなつて住みよい世の中になると思う。でもこの勇気を持つという事は大変むずかしい事だと思ふ。でも私はけつして知らんふりをするような人間になりたくない。また、許しておく事ができないと思う心だけはいつまでも持ちつづけた。

感想(和歌山県同和委員会)
不正や不当なことに對する若者の純粋な憤りや、勇気ある行動力は、社会の宝物です。本當の勇氣ある人間になるために、正しく物事の本質を見極めて、どうすべきかを正しく決断できるよう、みんなで勉強し、努力しようではありませんか。

29(水) 7:30	28(火) 0:40	27(月) 6:30	25(土) 10:00	24(金) 10:00	22(水) 7:00	21(火) 0:40	20(月) 6:30	18(土) 10:00	17(金) 10:00
ラジオきくく81 スタジオ番組	労働保険の年度更新手続き ラジオきくく81	ラジオ 県民スタジオ 母と子の読書活動	ラジオ 県民スタジオ 同和問題を考える	ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)	ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)	ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)	ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)	ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)	ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)

4月	5月
ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)	ラジオ 県民スタジオ ラジオ 豊かに生きる(再)

電波で結ぶあなたと県政

ラジオ 県民スタジオ
ラジオ 豊かに生きる(再)

ラジオ 県民スタジオ
ラジオ 豊かに生きる(再)

お知らせ

★ご案内

住宅資金は 年金住宅福祉協会で

和歌山県年金住宅福祉協会では、厚生年金や船員保険の加入者の方々に、住宅資金の融資をしています。昨年度は百二十件の利用がありました。

ことしの申込時期は、4月7日、10月、1月の中旬(下旬の予定)。新築、増改築をされる方は今からご準備を。貸付限度額 二百五十万円(五百五十万円 年利 六%)

くわしくは同協会 ☎(0734) 28-2400。

講習会に参加して 自然観察指導員になろう

県と日本自然保護協会では、自然保護思想を啓発する核となる「自然観察指導員」を養成するため講習会を開きます。受講者にはライセンスを交付。

講習会 5月22日(土) 県立白崎少年自然の家。定員 県内50人、県外10人。先着順。受講資格 20歳以上の人で、自然観察活動の推進に意欲があり、講習会の全日程に参加できる人。

申込方法 必ず電話連絡をしてから、返信用封筒を同封し、住所、氏名、電話、年齢、性別、職業、所属団体、主催協会会員か非会員か、自然観察会等への参加の有無を書いて左記へ。

申込先 県内の人 県庁自然保護課。県外の人 東京都港区虎ノ門一丁目一八番 虎ノ門電気ビル内、日本自然保護協会、自然観察指導員講習会係 ☎(03) 503-4896

くわしくは申込先で。

労働保険の年度更新は 5月15日までに!

今回は労働保険の料率が1月から、また雇用保険の料率が4月から、それぞれ引き上げられています。保険料の計算と申告書の記入にはご注意ください。この両保険は一人でも労働者を使用している場合、必ず加入しなければなりません。未加入の事業主は今すぐ加入手続きを。くわしくは労働基準局 ☎(0734) 22-2171 各各地の労働基準監督署(和歌山、橋本、御坊、田辺、新宮)または県庁雇用保険課へ。

標準小作料が 改訂されました

農地を賃借している方は、新しい標準小作料を基準にして、お互いに話し合いのうえ小作料を決めて下さい。なお、標準小作料は地域の実情に応じて定められていますので、くわしくは市町村の農業委員会、県庁の農政課でお尋ね下さい。

統制小作料は廃止。昭和45年以前から賃借されている農地に適用されていたものですが、ことからは標準小作料が適用されます。

小作料は収穫物でも支払えます。農地法が改正され、お金だけでなく、米など農地の収穫物でも支払えるようになりました。

有料公園施設は 毎週一回、休みます

施設名・定休日

- 紀三井寺運動公園(野球場、庭球場、陸上競技場、球技・補助競技場) 月曜日
- 秋葉山県民水泳場 月曜日
- 大新公園水泳場 火曜日
- 河内県民水泳場 火曜日
- 県営相模原競技場 月曜日

なお、定休日が祝日や振替休日日に当たる時は、その翌日を定休日とします。

愛犬には、登録と 狂犬病予防注射を

●生後九十日以上の子犬は、毎年一回登録して、鑑札を首輪に。登録手数料(頭)二千円。

●集合予防注射は毎年、春と秋の二回受け、注射済票を首輪に。注射手数料(回)二千三百円。

定期集合予防注射の日程等くわしくは市町村役場保健所で。

★試験

高圧ガス関係の試験

高圧ガス製造保安責任者試験と販売主任者試験を行います。

日時 5月31日 午前9時30分

場所 和歌山会場 県立和歌山



紀州回船

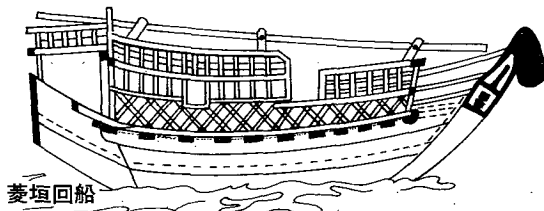
江戸時代の海運界の主役

江戸時代の代表的な回船として、菱垣回船と樽回船が有名ですが、この両回船は、摂津の灘(兵庫)と紀州の回船などによって構成されていたことはあまり知られていません。紀州回船は、近世の海運界で中核的な存在であり、菱垣・樽回船の盛衰は、紀州回船の盛衰そのものであったといえます。

大型帆船を持つ

紀州回船

紀州回船とは、紀州全域の回船を総称するのではなく、日高、比井、富田の三地域の回船をいいます。それは、この三地域が千石船という大型帆船(二重造るのに約千両、今の価格にして約六千万円)を保有し、比井回船は、はじめは日高回船に入っていました。宝



風向きが良ければ、潮岬沖から伊豆沖へ一昼夜で航海したという。紀州回船の航路



永四年(一七〇七)の西宮酒積問屋の成立に呼応して、宝永六年から酒樽運送に転じて独立しました。

全盛期は 明和・天明期

富田回船は、関係史料に乏しく、その実態はつかみにくいのですが、寛政五年(一七九三)には日高回船に含まれていました。

樽回船が菱垣回船を圧倒するようになってきた頃には、紀州回船も樽回船に所屬し、灘方面からの酒樽を主な積み荷にしていた。

そして、明和・天明期(一七六四～一七八八)に全盛期を迎え、樽回船の中でも主要な回船となっていました。このころには、各地の神社へ、航海の安全を祈願した寄進も盛んに行われていました。

勢力ばんの回のため 菱垣回船と合併

灘の酒造家たちが自ら回船を造って輸送する、いわゆる手船化をはじめたため、酒運賃の低下をまねき、それが紀州回船の衰退へと追い込んでいくことになりました。

これを切り抜けるため、天保四年(一八三三)には、紀州回船は樽回船から離脱し、菱垣回船と合併します。この合併は、紀州回船ばかりでなく、衰退を続ける菱垣回船にとっても利点がありました。千石船クラスの大型船を数多く持つ紀州回船と合併すれば、大金をかけて船を建造しなくても輸送手段を確保できるからです。

しかし合併後も、多くの障害があり、その運営は円滑にはいきませんでした。そのころは、天保期以後、紀州回船の数が著しく減少していることからわかります。

お知らせ

工業高校 新宮会場「東宝会」合庁舎 願書受付 4月20日(4月24日まで) 県庁消防防災課 または各県事務所総務課で試験の種類 液石内種化学、特別内種化学、第二種冷凍機械、第一種販売、第二種販売、くわしくは願書受付先で。

理容師・美容師試験 試験日・場所 ●理容師(学科) 5月11日、県民文化会館(美地) 6月15日、県民文化会館(和歌山市内) ●美容師(学科) 5月11日(美地) 6月8日、県民文化会館 願書受付 4月13日(18日) (消印有効) もよりの保健所で試験手数料 五千円、くわしくは保健所か県庁環境衛生課で。

警察官を採用します 採用予定人員 警察官A(四年制大学卒業者) 約十五人、警察官B(以外の人) 約十五人。資格 昭和28年4月2日昭和38年4月1日に生まれた男子。試験日 5月17日。試験地 和歌山市と田辺市。受付 4月13日(5月2日)に、県人事委員会事務局(県庁内)で。申込用紙は、警察本部警務課、各警察署にもあります。くわしくは県人事委員会事務局へ。

母子家庭住宅(県営)の空き家入居予定者を募集 空き家が次々、入居できるよう入居予定者と入居順を決めて登録しておくもの。所在地 和歌山市島川(永田地内) 家賃 月額四千円。受付 県庁婦人児童課。締め切り 4月28日。くわしくは婦人児童課で。

自然はくぶつ館の職員を募集 県教育委員会では、海南市船尾に建設中の自然はくぶつ館(仮称)の職員を募集します。職種 飼育担当の技術職員。アジア、アフリカ、中近東。

米 袋の表示をよく見て買ひましょう

これは、県が定めた品質区分を表示することになったので、消費者が米の品質を見分けやすくなるのが目的です。米をかうときは登録米穀店で袋の表示をよく確かめて買ひましょう。

和歌山県指定表示精米			
図案や商品名など			
和歌山県登録米穀店			
配給品目	内地米	品質区分	III
原料玄米	自主流通米1類	品質区分1類	品質区分1類
販売価格	円		
正味重量	kg		
とう精年月日	年 月 日		
とう精工場	〇〇精米工場		
製造販売業者	〇〇米穀店(住所・電話番号)		

和歌山県が定めた品質区分			
品質区分	品質基準	表示方法	
I	自主流通米1類(Aランク銘柄)のみ使用	自主流通米1類(Aランク銘柄) 100%	
II	自主流通米1類のみ使用	自主流通米1類 100%	
III	自主流通米1類を主とし、政府米1類を合わせ使用	自主流通米1類×% 政府米1類〇〇%	
IV	政府米1類のみ又は主とし、自主流通米1、2類、政府米2類を使用	自主流通米1、2類×% 1類〇〇% 2類△△%	
V	政府米2類のみ又は主とし、政府米1類、3類を使用	1類×% 2類〇〇% 3類△△%	
VI	政府米2類、3類、4類、自主流通米5類を使用	2類×% 3類〇〇% 4類△△% 自主流通米5類□□%	
標準価格	政府米3類のみ使用	3類 100%	
政府米5類のみ使用	5類 100%		

(注1) 54年産米から米に品質格差が導入され、1類から5類までの5段階に分けられています。

1類……府県の奨励品種で食味が一般的に好評な銘柄米

2類……1類に準ずる評価があると認められる銘柄米

3類……4～5類を除く、1～2類以外の品種

4類……西南暖地早期栽培米および青森県産米

5類……北海道産米

(注2) 自主流通米……全国の農協など集荷団体と米穀販売業者団体が話し合っ、政府の認可を得たうえで自主的に取引される一般的に品質の良い米

政府米……政府が農家から買い上げて販売する米

貸与月額(円)			
	国・公立	私	立
	自 宅	自 宅 外	自 宅 外
高校	8,000	13,000	20,000
高専	10,000	11,500	21,000
短大	20,000	26,000	28,000
大学	20,000	26,000	29,000

奨学生(予約)募集 来年度進学予定の方 日本育英会は、昭和57年4月に進学予定で、学費不足の方に奨学金を貸し出します。

募集人員 若干名 資格 ①昭和16年4月2日以降に生まれた人②家族関係 水そう掃除などの肉体労働に耐えられる人③学業 理系系の大学(学部卒業またはそれと同程度の学力のある人)で、魚類、海産物、無脊椎動物に関する専門知識を有する人④潜水士免許、小型船舶操縦士免許、普通自動車免許の一つを持っていること。

催し 和歌山の動植物 ウミネコ

日高郡美浜町三尾の弁天島や由良町の白崎付近で見られる。

主催者の都合で変更することがあります

県民文化会館 ☎(0734)36-1331

〒640 和歌山市小松原通1-1

●大ホール ▶ヤマハ音楽教室発表 4月18日、後3:00 19日、前10:00(無料) ▶改正税法説明会 4月23日、後1:30(無料) ▶藤山寛美 4月25日、後1:00と5:30(3,000~5,500円) ▶田原俊彦 5月2日、後3:00と5:30(2,000~2,500円) ▶長瀬剛 5月4日、後4:30(2,000~2,300円) ▶小林佐和美 5月5日、後1:00(1,000円) ▶小林旭 5月14日、後6:30(2,700円) ▶松山千春 5月15日、後6:30(2,500円)

●小ホール ▶花開江戸講談会 4月18日、後1:30(1,000円) バレー&マリンバの夕べ 後6:30(無料) ▶グ・カーポ 4月19日、後1:00(無料) ▶箏温習会 4月26日、後0:30(1,000円) ▶中西忠バイオリン 5月3日、後1:30(無料) ▶プッチ・フル 5月4日、後1:30(無料) ▶アンダンテ 5月5日、後1:00(無料) ▶小林観風会能楽 5月10日、前10:00(無料)

県立近代美術館 ☎(0734)36-1331

〒640 和歌山市小松原通1-1 (火曜日休館)

▶館蔵作品展「洋画の世界」 5月4日まで

▶秀蘭会展、オール関西フォトグループ展、彩展 4月16日~20日 ▶葵フォトグループ写真展、勝和会墨画展、火曜会展 4月23日~27日 ▶黎明クラブ写真展、木国写真会展、グループ展 4月30日~5月4日

県立博物館 ☎(0734)23-2467

〒640 和歌山市一番丁1 (和歌山城公園内)

▶常設展「紀州の文化財」(月曜日と祝日の翌日は休館) 一般100円、大高生50円、小中学生30円。

紀三井寺運動公園 ☎(0734)44-7565

県都市公園事務所 〒641 和歌山市毛見200

●陸上競技場 ▶クラブ対抗 5月2日、3日 ▶有田陸協競技会 5月4日 ▶和歌山市記録会 5月5日 ▶海南市民総体 5月10日

●野球場 ▶近畿高校野球予選 4月18日、19日、25日、29日、5月2日、3日、4日 ▶中学校紀北の部決勝 5月5日

●庭球場 ▶天長杯西日本大会 4月26日 ▶和歌山市中学選手権 5月3日、4日

●球技・補助競技場 ▶ラグビー高校選手権 4月18日、25日 ▶サッカー天皇杯和歌山大会 4月19日、26日

県立体育館 ☎(0734)22-4108

〒640 和歌山市中之島向ノ芝195-1

▶卓球県会長杯争奪 4月26日

県立武道館 ☎(0734)44-6340

〒641 和歌山市和歌浦西2丁目

▶全日本女子柔道選手権 4月19日 ▶全日本柔道新人体重別県予選 4月19日 ▶和歌山市少年柔道大会 5月10日

植物公園緑花センター ☎(07366)2-4029

〒649-62 那賀郡岩出町東坂本

▶えびね展 4月25日、26日(展示販売あり)

▶植物公園春のまつり 5月1日~5日 ※サボテンと多肉植物展、春の山草展、春の原色押花展、生け花展(春を生ける)、花き植木展 ▶植物趣味教室(春の原色押し花のつくり方) 5月10日(押し方)、17日(仕上げ) 対象:一般愛好者 申込:はがきか電話で。※せん定ばさみ、ピンセット、カッターを持参のこと。

西村さんの家は先祖代々、農業のかたわら炭焼きをしてきた。生さん(父)も小さなころから仕込まれ、自分で焼くようになってもう三十年になる。山間部のこの地域では農業といっても米や野菜づくりは自給自足がやっと。生さんの代になって梅の栽培を始めたが、息子の達也さん(父)が父親を評して「おやじは、炭焼き以外は何でもできない……」というくらいに生さんの半生は、備長炭づくり一筋。備長炭技術保存会の会員でもある。この地味な仕事、炭焼き。ここ四、五年前から「備長炭」のよきが見えおされ、需要も多くなってきた。というもの

備長炭づくり一筋

日高郡南部川村

西村生、西村達也さん父子



父親の生さんが窯の番をしているとき、息子の達也さんは山で原木を伐採。窯出しや出荷は二人で当たるといふ。

の、きつい労働の割に収入も少なく、製炭にたずさわる人も減少気味。特に若者は県外へ職場を求め、村を離れる人が多かった。そんな時、達也さんは中学校を卒業。お父さんに従って炭焼きを始め、十年余りになる。大変なのは、原木の切り出し。そして、一番つらいのは備長炭づくりの工程で最も重要な窯出しの時機が、真夜中になったり、暴風雨など悪天候に遭ったときだといふ。

「この炭を焼くことが文化財を守り伝えていくことになるから」といふ大げさなものではないが、会社勤めのように、他人に気兼ねする必要もなく、自然相手のこの仕事が好きだし、やりがいを感じてからこれからは続けたい」と話す達也さん。

生さんは、そんな息子の言葉に目を細めながらも「まだまだや。一人前になるにはもう四、五年はかかる……」と手きびしい。それほどこの炭づくりはむずかしい。窯のたき具合、窯出しの時機などを決めるのは、経験と勘に頼るしかないからだ。

そのことはよく知っている達也さん。「おやじがいるからどうしても頼ってしまいがちだったが、もう、一人だちする自信はある」とさわやかに話す若者である。

備長炭——うばめがし(県の木)やかしを原木にして、紀州独特の窯で製造される木炭。火もちがよく、炎が出ない。かば焼きなど料理用に使われる。徳川時代、田辺の炭間屋、備中屋長左衛門という人が、この炭を江戸や大阪へ出荷し、好評を博したので、備長炭と名付けられたといふ。昭和四十五年に備長炭製炭技術保存会が結成され、紀南を中心に約三百人の会員がいる。

●昭和四十九年、伝統ある製炭技術を守るため、備長炭の製炭技術が県の無形民俗文化財に指定された。年間生産量約二四〇〇トン。

●昭和四十九年、伝統ある製炭技術を守るため、備長炭の製炭技術が県の無形民俗文化財に指定された。年間生産量約二四〇〇トン。

●昭和四十九年、伝統ある製炭技術を守るため、備長炭の製炭技術が県の無形民俗文化財に指定された。年間生産量約二四〇〇トン。

内職も「技術」の時代 ます講習を!

婦人等就業援助センター

簡単な内職は非常に少なくなっていますが、技術を身につけていけば仕事も得やすいものです。

婦人等就業援助センターでは、次の予定で技術講習を行います。受講料は無料ですが材料費など実費負担の場合があります。

●受講申込は当センターか、各地の就業援助相談員に問い合わせて申し込んで下さい。先着順で受け付けます(電話も可)

●順に講習科目、開催期間、定員、講習場所を紹介します。

●動力ミシン(初心者) 6月3日~6月24日(土、日、を除く) ほか三回。一回十五人。就業援助センターと希望の多い地区。

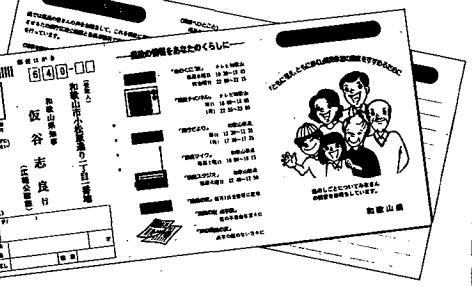
●手編(初心者) 5月11日~6月1日(土、日、を除く) ほか五回。一回二十人。就業援助センターと希望の多い地区。

あなたの「ひとこと」を県政へ

提言用はがきは市町村役場で

県民の皆さんから、県政への建設的なご意見を直接、知事に提言いただき、県民参加の行政をすすめます。

市町村役場と各県事務所、それに県庁県民ホールに備えている提言用はがきで、どしどしお寄せ下さい。



就業援助相談員の配置場所(相談時間は午前10時~午後4時)

配置場所	相談日	電話
那賀県事務所	月・木	07366-2-2101
伊都県事務所	月・木	07363-2-1155
海南商工会議所	月・木	07348-2-4363
有田県事務所	月・木	07376-3-4111
御坊公共職業安定所	月・木	07382-2-3527
西牟婁県事務所	月・木	0739-22-1200
東牟婁県事務所	月・木	0735-22-8551
本宮町役場	月・水	07354-2-0070
串本公共職業安定所	月・木	07356-2-0121

●救急手当てと家庭看護 10月13日、12月8日(祝日を除く火、木曜日) 三十人。桜花会館(和歌山城内)。

●和歌山県婦人等就業援助センター 和歌山市西丁1の2 和歌山県経済センタービル4階 ☎(0734)33-1181

●第三十回県生活改善友の会実績発表大会(2月17日)

●紀淡海峡トンネル調査ワーキンググループ発足(2月17日)

●第十一回社会福祉施設従事者大会(2月24日)

●異常寒波で農作物に被害(2月25日~3月1日)

開花中の梅や収穫期のはつきく、えんどう類などに総額約六十億円の被害が出た。県は天災融資法の発動と激甚地指定を国に申し強く要請。

●県議会議員会館竣工(2月27日)

●第十九回和歌山県スポーツ賞(2月27日)

個人百九人と三十八団体に各賞が贈られた。

●昭和五十六年春季火災予防運動(2月28日~3月13日)

●左海伸夫氏、保田龍男氏、県医学奨励賞(3月6日)

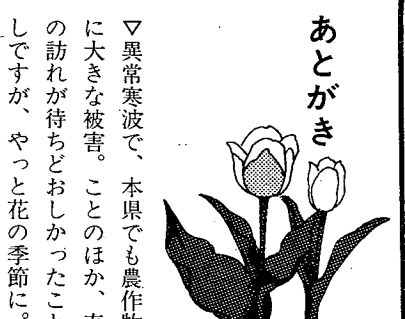
左海氏はスポーツ障害の治療と予防などに対する整形外科的研究、保田氏は手の外科の臨床研究が、それぞれ受賞対象。

●漁業取締船「はやぶさ」竣工(3月6日)

三十四・六トン、最高速力二十七・一ノット、レーダーや各種無線機器を備え、取り締まりにあたる。

●昭和五十五年和歌山県名匠表彰(3月7日)

伝統ある工芸品や生活用品の



あとがき

▽異常寒波で、本県でも農作物に大きな被害。ことのほか、春の訪れが待ちどおしかったことですが、やっと花の季節に。▽四月から昭和五十六年度がスタート。ここ数年、沈滞気味の県勢に活力を吹き込もうと、知事が浮上策を熟考し話しました。(二面、知事に聞く)

▽四・五面、医大の整備問題の特集。「まず、附属病院を建て替え、将来は統合移転をめざして国立移管をすすめる」という県の考え方を解説。

▽「県政へ一言」を募集中です。あなたの声をお待ちしています。

製作などの技術を持ち、技術文化の向上発展に功績のあった人々を表彰するもの。ことしは次の三人に。(敬称略、写真左から)岡田虎次郎(木地師・海南市)三井智文(宮大工・岩出町)飯田善一(花火師・吉備町)

●二月定例県議会開会(2月25日)

なお三月十日、十一日に、知事の所信表明(録画)と各会派の代表質問(生中継)をテレビ和歌山で放映。和歌山放送ラジオでも録音で放送。